

第 3 回審議会のご意見について

	No	意見	対応
一般廃棄物処理基本計画	1	資源・ごみ分別アプリというツールがせっかく出来上がっているのに、その中で処理困難物のテーマや食品ロス等の分別以外の内容を盛り込むなど、今ある機能をうまく活用して周知していくことも必要である。	今後は、資源・ごみ分別アプリ内にて、食品ロス等のリデュース・リユースに関わる内容を盛り込むことやLINEとアプリを連動させることを検討するなど、今ある機能での周知内容を充実させ、引き続きごみや資源に関わることにについてあらゆる周知媒体を活用し周知徹底を図っていく。
	2	豊島区がLINEをやっていると思うのですが、そこの豊島区のLINEの中にごみの問題とか、アプリに誘導するような仕掛け等、取り組みをしていて、それも含めた形でこのアプリの活用なのか、それともXでの運用だけで、そういった影響は特に考えていらっしゃらないのか。	「基本方針 1：リデュース・リユースを推進する」の「②区民・事業者への啓発・情報発信」の中で検討していく。
	3	集積所におけるQRコードについて、ごみを捨てるときに携帯電話を持っていかないと思ったので、せっかくいいものを作っても、見ていただかないとあまり意味がないため、何か改善していく余地があるかと思う。	集積所にはQRコードのシールを貼り、スマートフォンで読み取ると多言語でごみ出しの説明を受けられるしくみになっているが、携帯を集積所に持っていない人もいるため、集積所以外でも引き続きあらゆる情報媒体を活用して周知を行っていく。
	4	様々な中小企業が自分の出したごみを再利用して新しい産業や商品開発をするという企業に表彰制度などを設けてはどうか。	「基本方針 1：リデュース・リユースを推進する」の「④事業者との連携によるリデュース・リユースの推進」の中で優良な取組事業者に対する表彰制度の導入を検討していく。
	5	高齢者社会への対応は喫緊の課題。豊島区にも高齢者の方も結構な割合がいるので、1人でごみ処理ができないという方に対して配慮していただきたい。	「基本方針 3：安定的で適正なごみ処理の推進」の「④ごみの収集方法等の調査・検討（ごみ有料収集等）」の中で、高齢化にかかるごみ出し等の課題について検討していく。
	6	食品ロスの対策というのは、家庭系しかやらないのか。事業所については今後は目標値も含めて検討していくのか。	参考資料第4-2号を参照
	7	TABETEの効果として算出された数字はどれぐらいの大きさなのか母数がわからないので、大きいのか小さいかわからない。例えば家庭系の食品ロスにまつわる二酸化炭素排出量に対して、このTABETEの活動で何%削減できるかなどの示し方ができないか。せっかく数字を出しているのに、この数字が使えるような出し方、評価できるような出し方をしていただきたい。	参考資料第4-3号を参照
	8	食品ロスの削減の目標値としてインターネットアンケートで食品ロスの削減に取り組む区民の割合を測るということだが、インターネットのアンケート調査というのはどのくらいの頻度で実施するのか。また現状で何%なのか。	参考資料第4-4号を参照
	9	このアンケートの質問の仕方は、食品ロスの削減に取り組んでいるか否かという聞き方か。回答がYESかNOだと「なるべく気をつけてやっている」等の中間の方もたくさんいると思うので少し幅を持たせた方がいいのではないか。	「①いつも行っている」「②時々行っている」「③今後行いたい」「④条件が整えば行う予定」「⑤今後も行わない」の 5 段階で回答してもらっている。
	10	家庭系の食品ロスを削減するには、食品販売しているところから区民が購入して、それがロスになる可能性をはらんでいる。例えば、消費期限と賞味期限の正しい理解が区民の方にどれほどが伝わっているのか。国の削減推進会議でも、賞味期限は美味しく食べられる期限ですということを強調しているという議論も進んでいるようで、豊島区民にも、この消費期限・賞味期限について理解してもらう方策や、そういった取り組みを出していただき、指標の目標値を達成できるよう取り組むことが必要。	「第 6 章食品ロス削減推進計画」の「 3 食品ロス削減のための取組み（1）情報発信・普及啓発の推進」の中で対応・検討していく。
	11	二次電池が可燃ごみに出された場合の被害の大きさなど、被害の状況等の報告はないか。注意喚起を図るにあたって一番重要なのは被害の状況がどれほど激しいのか、どのくらいの頻度で起こっているのかといった事実。税金を使うわけなので、被害額等、被害の状況とか、その恐ろしさがセットでないと、説得力が少なくなってしまう。	参考資料第4-5号および参考資料第4-6号を参照 区民の方に被害の大きさ等の理解や危機感をもって分別に協力いただけるよう周知内容の工夫するなど、「基本方針 3：安定的で適正なごみ処理」の「②有害物質等の適正処理」の中で検討していく。
	12	小型充電式電池の回収拠点は、区内に16ヶ所ということで小学校の数よりも少ない。これは拠点回収の場所が不足していると感じる。小型充電式電池使っている製品は、かなり多くなっている。実際に清掃工場等で発火した事故というのが何度も起きているというような状況を聞いている。中には、捨てる場所がよくわからないとか、そういった理由で一般ごみに混ざっている可能性もあると思うので、研究が進めば区内の拠点は増やせるということだったが、一般ごみに混ざるリスクも高いままになってしまうので、回収拠点を増やすなりもっと区民が排出しやすくなる方策は早急に検討すべき。	「基本方針 3：安定的で適正なごみ処理の推進」の「①適正分別・適正排出の徹底」および「②有害物質等の適正処理」の中で検討していく。
	13	ごみを出しやすくするのは非常に重要で、二次電池で火災があった原因は、ほとんどが押しつぶされたことによるもの。パッカー車に入れて、押しつぶすとき、あと破砕機に入れてしまっでそこでつぶされたときに発火している。排出方法がわからず二次電池を使用している製品をごみに混ぜてしまったり、いろいろ手続きしなきゃ捨てられなくて、面倒になってごみに入れてしまうこともある。こういったことを防ぐため利便性を高めるのは非常に重要なこと。	
	14	電池というのはスマートフォンとか、モバイルバッテリー等で、なんの気なしに使っていて、危機感がない。不適正排出が火災につながる事実を、事例として周知することも重要。安全処理するための普及啓発としてSNSや動画等で気が付かないけれど身近な問題として、普及啓発活動を含めた対策を考える必要がある。	
	15	小型充電式電池をプラスチックに混ぜないでほしい。プラスチックの中に入って、破砕機にかかって、機械で衝撃を与えてしまうと、20分とか1時間経ってからくすぶって燃えるというのが小型充電式電池の怖い部分。とにかく混ぜないでくれと呼びかけるのがよい。	
	16	電池についての発信が弱いと区民として感じる。区民全体に知らせるな工夫をしてもらいたいと一区民の立場から思う。	
災害廃棄物処理基本計画	17	災害廃棄物の処理について、国に補助金を請求することになると思うが、その手続きがものすごく大変。手続きのところの計画も作った方がいい。	国の補助金にかかる具体的な手順について、対応マニュアル等をあらかじめ作成し整理しておくなど、検討していく。
	18	災害が起こったときに出てくる廃棄物というのは、いわゆる何か壊れたり水に浸かったりってものじゃなくて、今まで捨てられなかった埋蔵ごみがそこで一気に出てくることがある。それが全体の処理と量を多くしてしまうことがあるので、埋蔵ごみを平常時に出示してもらうというのは、非常に大きなことである。	平常時から埋蔵ごみについて周知を行う等、検討していく。
	19	災害廃棄物処理基本計画の概要版の3ページ目の7番の仮置き場のところ。区民仮置き場として、区立公園等を想定と書いてあるが、「想定」というところが気になった。町会や公園緑地課と調整されているのか。発災後は町会の方は、公園に物資を置いたり、炊き出しも想定される。多くの区民が、がれきや片付けごみを一時的に置くということで、どこに置くか等町会などに周知されているか。発災後にいきなり公園の一部分にがれきを置かれても、多分混乱すると思う。きちんと町会の方々と話し合ってほしい。	仮置場について、他部署等の関係者と話し合い、引き続き調整を行っていく。